

---

# 関東4県情報伝達訓練と 茨城県における透析用水の 実態調査について

---

茨城県臨床工学技士会  
災害対策委員会  
佐藤 長典

# 関東4県情報伝達訓練について

## 経緯

平成24年5月、利根川が汚染され、千葉県  
の5市で断水、減水。一部の透析施設に影響。  
利根川水系の事故は両県に影響を与える。  
平成26年4月、千葉県と茨城県の合同訓練を  
実施。さらに、今後の広域災害を想定し、  
関東4県(栃木、埼玉、千葉、茨城)の合同災  
害時情報伝達訓練を実施。

## 日時

平成27年4月24日(金)  
午前10時～午後6時

# 関東4県情報伝達訓練について

## 想定

4月24日(金)、午前9時30分、茨城県沖を震源とする大地震が発生。

茨城県、千葉県の全域で震度5から6強を記録。

津波による冠水被害や、液状化被害により透析不可となる施設が多数出現。

日本透析医会災害情報ネットワークを使用して、栃木県と埼玉県に患者の受け入れ要請を発信。4県の間で情報共有。

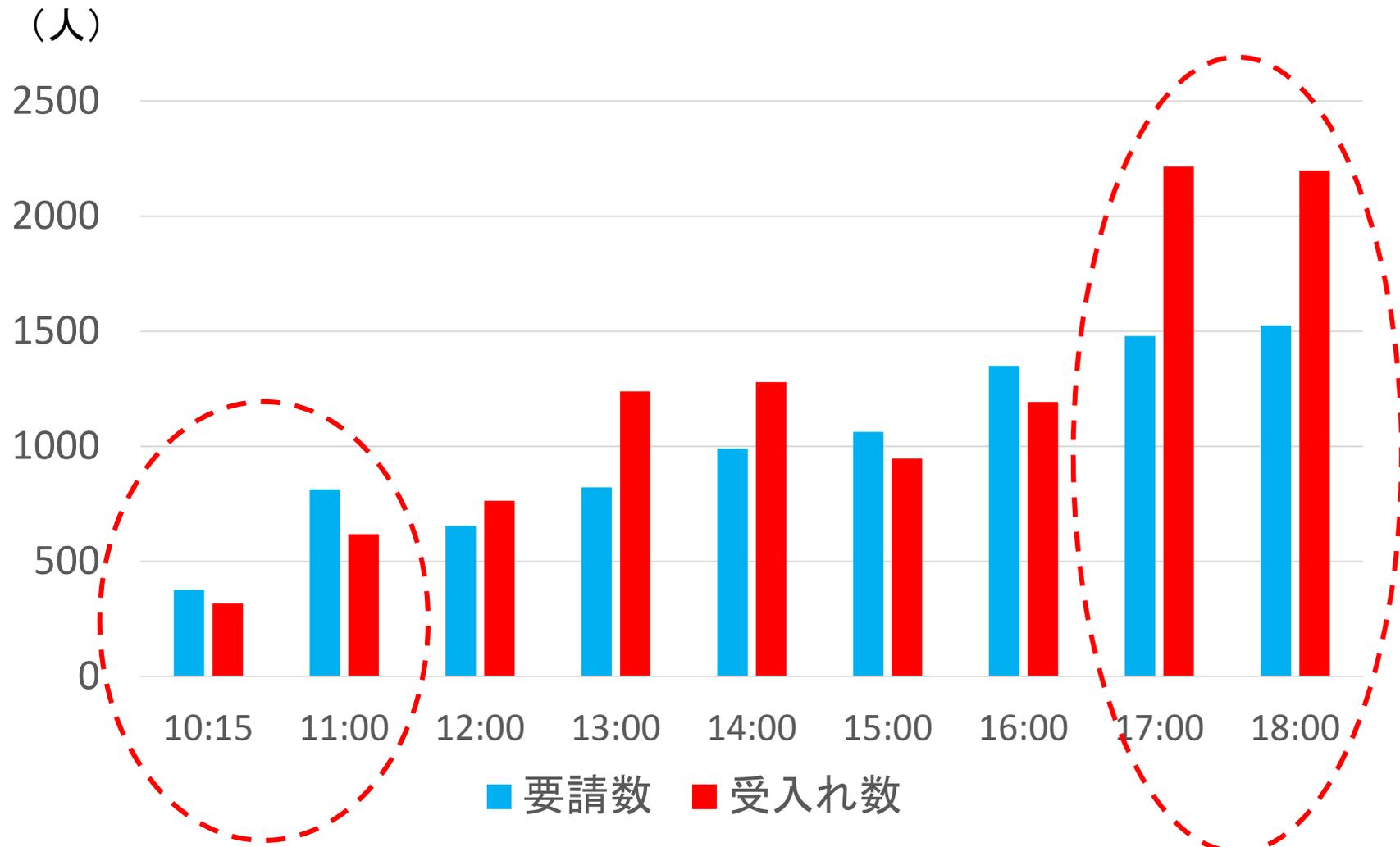
# 関東4県情報伝達訓練について

## 結果

参加施設 : 235施設(参加率=52%)  
栃木県～21施設(68%)  
埼玉県～112施設(61%)  
千葉県～73施設(47%)  
茨城県～29施設(37%)

# 関東4県情報伝達訓練について

## 透析患者要請数と受入れ数の推移



# 関東4県情報伝達訓練について

## 課題

- 埼玉県内はEMIS(広域災害救急医療情報システム)を使用した情報収集。  
各県で情報を共有する手段、方法を整える。
- 基幹病院から関連医療機関へ、受入れ要請等を迅速に伝え、連携を強化するためにはどうすればよいか。
- 通信機器の点検のためにも、数ヶ月に1度の災害訓練が必要。

# 茨城県における透析用水の調査

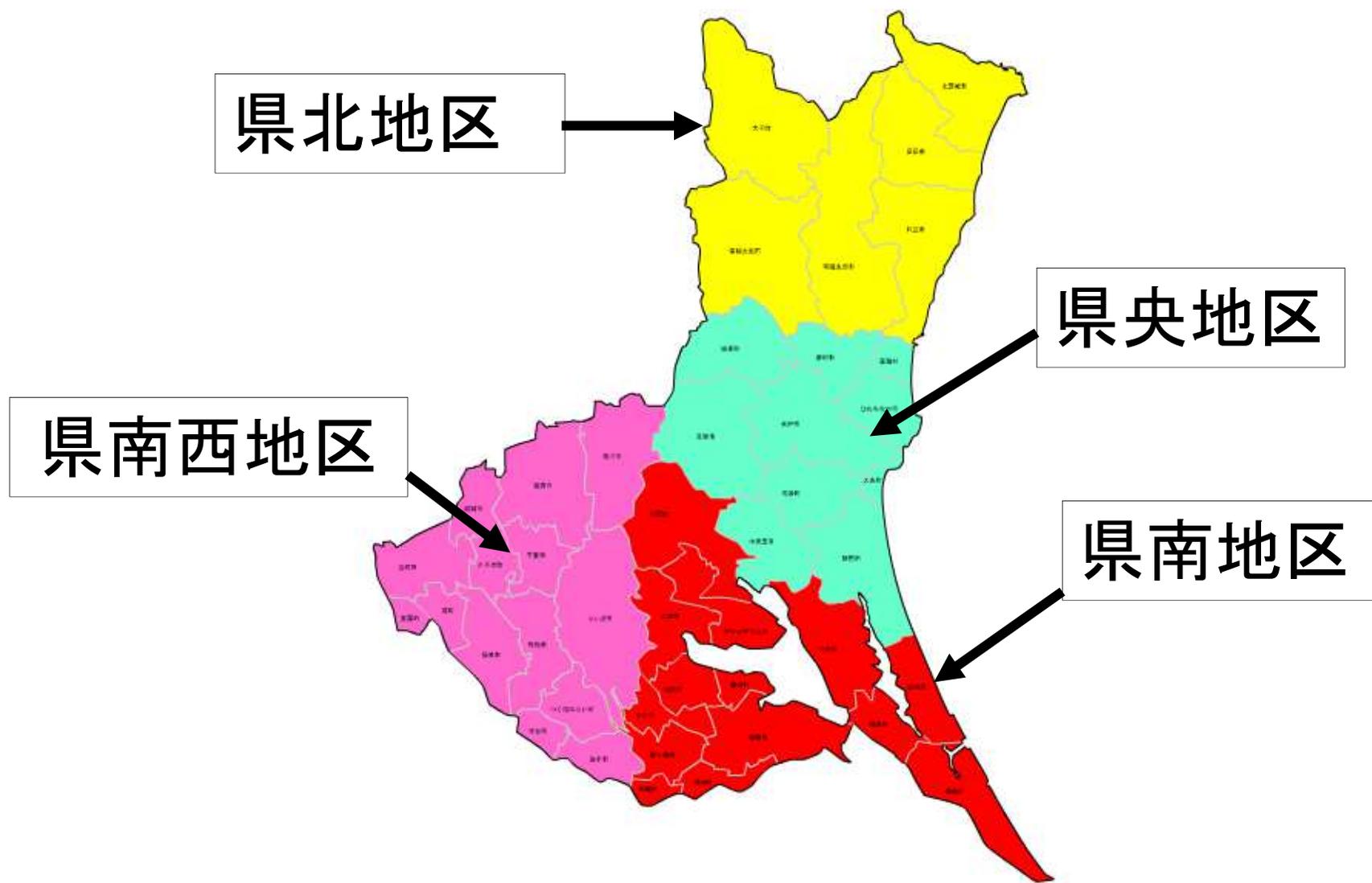
## 目的

平成26年9月、「災害時における透析医療に関する検討会議」が開催。

茨城透析談話会、茨城透析医災害対策連絡協議会、保健所、茨城県保健福祉部、医薬品、医療材料の企業、当技士会が出席。

災害時における透析用水の確保に関する実態調査を実施する。

# 透析施設の災害時連絡網のブロック



# 茨城県における透析用水の調査

期間

平成27年7月14日～7月28日

対象

茨城県内の透析治療を行っている医療機関  
89施設

県北 16施設

県央 21施設

県南 24施設

県南西 28施設

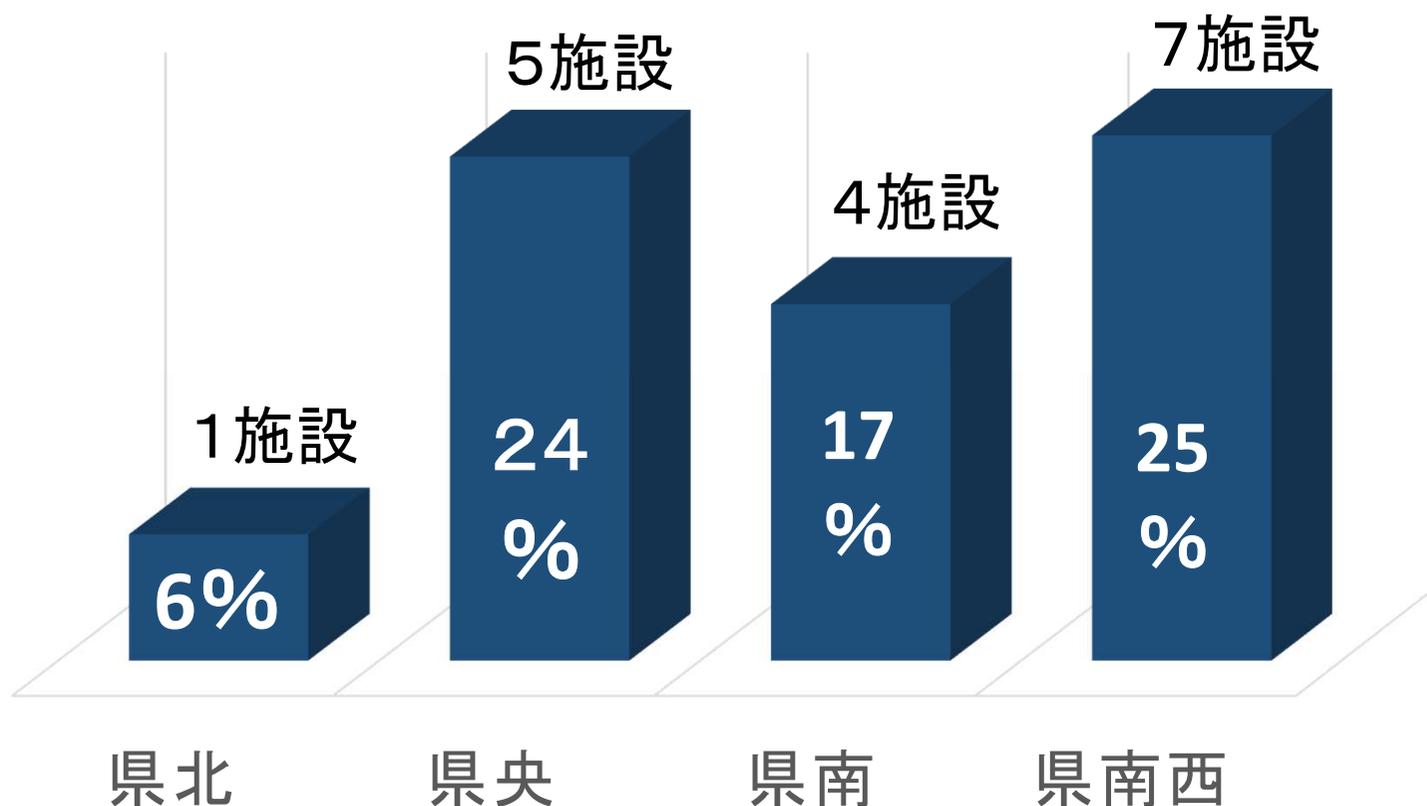
回収

58施設(回収率 65%)

## 茨城県における透析用水の調査

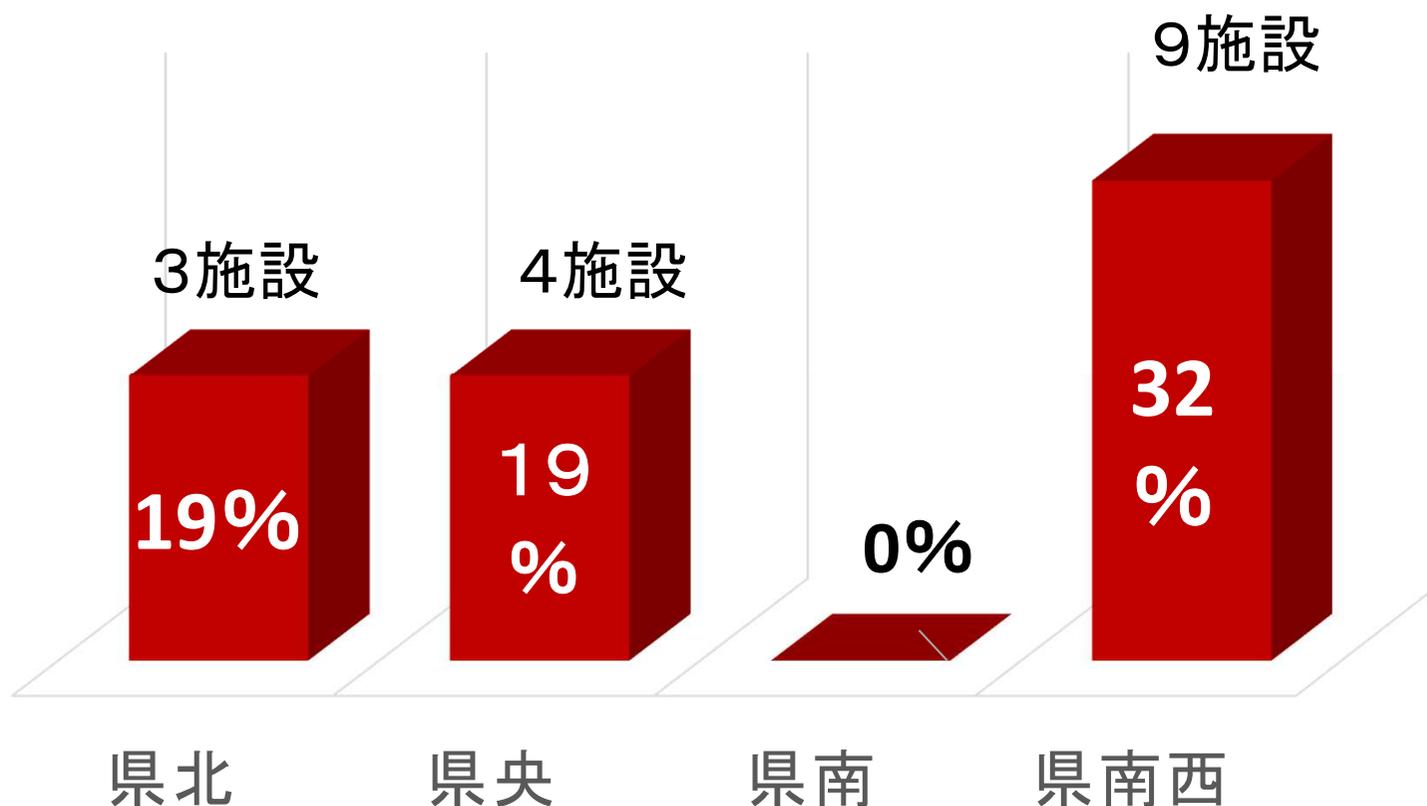
### 停電・断水時に透析可能施設（地区別）

～自家発電装置、地下水処理設備あり（備蓄タンク少容量含む）～



## 茨城県における透析用水の調査

**停電・断水時に透析不可施設**（地区別）  
～自家発電装置、地下水処理設備とも無し～



## まとめ

- 合同訓練や県内の実態調査を通じて、各県、各施設の災害への備えの違いを改めて認識した。
- 災害は県別に発生するわけではない。  
広域災害に備え、他県との情報共有と、連携活動を強化する訓練を今後も定期的 to 実施する。
- 自家発電装置、地下水処理設備の拡充に向けて今後取り組む。
- 災害時に、電気、透析用水の確保が困難な施設を支援する訓練が必要である。



ご清聴ありがとうございました